

東光寺報

●編集・発行
曹 洞 宗 東 光 寺
☎359-0012
所沢市坂之下383番地
TEL /04-2944-3531
FAX /04-2945-2408

「今思うこと」

東光寺住職

洪谷俊成



檀信徒の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

早いもので1年が経ちました。時の経つのは早いもので、住職の任を頂いて15年が経ちました。昨年は本堂内の照明をLED化、床下の点検と清掃、客殿の男性用トイレの改装、御礼祝賀会を行わせていただきました。ご尽力頂きました皆様に改めて御礼を申し上げます。

無常という言葉をご存じでしょうか。学生の頃に「祇園精舎の鐘の声、

諸行無常の響きあり」と平家物語の冒頭で1度は聞いたことのある言葉かと思えます。仏教においての意味としては、広辞苑にも掲載されている内容では、一切の物は生滅・変化して常住でない事です。物語の内容から人生のはかなさやもの悲しさを感じる言葉ですが、今ある事の尊さを感じる言葉でもあります。

世間では様々なことが目まぐるしく変化し、進み続けています。私達もその変化していく世の中において、今あるものを大切にしていけると共に、新たな変化に柔軟に受け入れねばならないと思うばかりです。

お盆は地域によって月日など供養のやり方は様々ですが、亡くなった御先祖様に報恩感謝をお伝えする思いは同じであります。御先祖様の思いと、いただいた身心とご縁を大切に

にして頂くと共に、新たに生ずるご縁を繋ぎ護っていただきたいと思います。

東光寺の近況



檀徒会会長

木下公夫

日ごとに暑さが増す頃となりました。檀徒会の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。

今年は米の価格騒動で、食糧問題が国会でも大激論となりました。私事です、思い起こすと終戦の年、昭和二十年に小学一年生となりましたが、小学校低学年時代は、日本中大変な食糧不足となりました。子供達の弁当は、お米のご飯の子はほとんどなく、つぶした大麦、粟、トウモロコシなどにお米を少し入れた「敷割ご飯」の弁当は上のほうでした。私も時々「焙烙焼き」と言っていた。ま芋の薄切りを焼いて、弁当として持って行く事がありました。食事の時には、女の子は全員、弁当箱

年々、暑さ厳しくなりますがご自愛いただきますようお願い申し上げます。 合掌

の中身を隠す為、弁当箱を包んだ新聞紙で顔まで覆い食べていました。都内をはじめ、疎開移住して来た同級生の中に、弁当を持ってくる事ができない数人の子がいました。弁当の時間になると、校庭前の川べりへ揃って出ていきました。子供ながらお互いにかわいそうな気持ちは理解しており、弁当がない事にふれることはありませんでした。

この当事を思い起こすと、今年起こった米流通問題は、食生活の豊かさが引き起こしたように思えてなりません。旅行で行った、曹洞宗の大本山永平寺での一汁一菜の料理と質素で厳格な一夜を思い起こすと、食の有難さを体験した大変有意義な経験でした。今年は永平寺への檀徒会親睦旅行を計画しております。皆様方のご賛同が得られましたら幸いに存じます。

最後に改めて、東光寺と檀徒会と共に護り続けて行きたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

令和7年東光寺
檀信徒親睦旅行

大本山永平寺参拝

大本山永平寺



永平寺勅使門(撮影イメージ)

～秋の富山・金沢北陸路の旅～

- 旅行期日：令和7年 10月14日(火)～15日(水)
- 旅行代金：¥55,000 (全行程バス利用／添乗員同行)
- 定 員：20 名
- 申込方法：申込書をご記入の上申込金 ¥10,000 を添えて
令和7年7月末日迄に、残金は9月20日迄に、
東光寺迄お納め下さい。

●ご供養のご案内●

大本山永平寺での先祖供養法要を、1霊につき別途10,000円にて承ります。
ご旅行にご参加されない方もご供養のみお申し込みも可能です。



金毘羅山大祭アルパ演奏

令和七年三月十日



本堂照明・客殿東司改装記念

令和七年三月二十三日

役員紹介

役職の変更がありました。右記の通りです。
新田地区から新たに齊藤喜代治様が役員を
お引き受けいただきました。今度ともよろ
しく願っています。

夫治 浩信 彦彦 明嘉 夫志 夫男	公友 重忠 元一 厚康 久貞 輝喜 代治	下田 藤田 藤峯 藤嶋 澤橋 山藤	木内 齊杉 佐永 内矢 八高 高齊
会長 長計 計査 査問 問員	会 副 副 副 副 副 副 副 副	会 副 副 副 副 副 副 副 副	会 副 副 副 副 副 副 副 副

一周年忌	三周年忌	七周年忌	十三周年忌	十七周年忌	二十三周年忌	二十五周年忌	三十三周年忌	五十周年忌
令和六年	令和五年	令和四年	平成二十五年	平成二十一年	平成十五年	平成十三年	平成五年	昭和五十一年

相談 窓口

特別に相談のある方は、電話で
予約され、御来山下さい。

毎月十日は金毘羅山の縁日となっています。皆様ぜひご参詣ください。